

日本ボーイスカウト北海道連盟だより 153号



斧の響き



第58回 全道スカウティング研究協議会 記念講演録
平成28年10月15日(土)～16日(日)
日本連盟 団支援・組織拡充委員長 村田 禎章

ボーイスカウトってなにがよいの !!

～より多くの青少年にスカウティングを～

1. スカウティングとは何か。
2. 方法とプログラム
3. 成人の役割ってなんだ？
4. スカウティングに求められるもの
5. より多くの青少年にスカウティングを

1. スカウティングとは何

皆さんこんにちは。自己紹介をするように言われましたので……。団支援・組織拡充委員長を仰せつかっています村田です。4年前にも来ましたが、いつもお呼び頂きありがとうございます。その時に比べますと髪の毛の生え際が後退してきました、昨日、とあるところへ連れて行ってもらいまして、もう少しすると後退が止まるのではないかと思います。

実は、増毛というところへ無理を言って連れて行ってもらいまして、「駅 STATION」の高倉健が好きでして、髪の毛とは関係ないです。

ということで何とか加盟員を増やさねばいけないとこの運動を浸透させていかなくてはいけないということで、その役割を担ってやっているわけですけど、まだ委員会始まって4か月しかたっておりません。今のところ高知連盟への支援を含めて、主に少人数県連盟への支援について検討しています。今後また他の県連さんにもお役に立てるようなことを考えていきたいとも思っております。

2022年までになんとか加盟員を増やしたいとは思っているのですが、なかなか難しい、中途退団を減らしていきたい。一時期プラス5マイナス0の掛け声をかけて、私も当時中央審議会におりまして、賛成したんですけど、でもマイナス0という辞めさせないのは現実的に無理です。何を話せばいいかという指導者が子供の機嫌を取り出した。そうするとプログラムが面白くなるという楽しいことだけしとき、いらなかったら来なくていいよ……。だから辞めないで、親にしてみたらそんなゆるゆるのところに入れてみたところでした。しっかりするわけでも無い。スカウティングの価値を失ってくるように思います。そのあたりがどうなのか、実際に辞めないでくれるのが一番良いのですが、家庭の事情であったり、部活の都合であったりする。隊長が足繁く通ってきて辞めさせるなどと言って来ると親としたら「もう来ないでください」とそのようなトラブルも現にであったりする。そうするとその親御さんたちはどうするかというボーイスカウト入れたら辞めさせてくれない。「辞めると言ったらしつこく言われるから入れないほうが

いいで」そうなるとプラス5も行かなくなる。そうではなくて我々は引き留めるけども、運動法・プログラムの魅力とか子供たちを如何に育てて社会に還していくかというところで勝負しなくてはならないのです。

先ほどちょっと言いました中途退団が非常に多い、なぜだということですが、世界的な統計を見ていきますと経済的・社会的に成熟している国で減少している傾向があります。イギリスも一時すごく減りましたが今は無事回復しています。ここ100周年のイギリスでの世界スカウトジャンボリーのときから回復している。その前10年位かけて機構改革を激しくやっている。ちょうどその機構改革をやっている時期にイギリスの会議に行って話を聞いて来ましたら、かなり強引なことをやっていたようですが、それが実を結んだ。実は今韓国もかなり減っているようです。

経済的に日本を追いつけ追い越せと追いかけてきた国は減らしている。

なぜかというところと青少年にとって選択肢が多くなります。経済的に成熟して大人が多くなって大人たちが子供たちのために色んなことをしようとそれが塾であったり、学校の競争を激しくして社会の中に生きていこうと作っていいこうと思うとどうしても子供たちの選択肢が多くなる。

今までは、スカウトか野球しかなかったのがそこへサッカーが入ってきて、バスケットボールBリーグとか言って、色んなものが増えていくこれからは減りはしません。増えていきますよ。そんな中でスカウティングをどうしていくかを考えなきゃいけない。子供の数は絶対数減ってます。昭和47年の静岡での世界スカウトジャンボリーと第23回世界スカウトジャンボリーと加盟員数・団数はその頃とあまり変わらないです。その頃は上り調子だったのですが、今は下り調子ですけど。なぜかというところBS隊からボーイスカウト始めたという人が多くて、カブ隊はあまりなかった。ボーイ隊が20数名いたのですが、カブ隊がないもんだから、黄色いバッジ付けて小学校4年生ぐらいが参加しているということもありました。

今、カブ隊・ビーバー隊ができ、子供の数減っているから、ビーバー3人・カブ5人・ボーイ6人・ベンチャー3人、団が細くなっている、昭和47年の世界ジャンボリーはボーイ隊だけ「ぼてっ」といた。つまり団に所属している数は同じなんですけどボーイ隊に集中していたということで、数と団数が変わらないのはそういう話です。細い虚弱体質の団があるのと一個隊だけ「ぼてっ」と筋肉質の隊があったということなんです。

少し整理してみたいと思います。中途退団を減らすためにスカウティングとはいったい何をするのか整理してみたいと思います。資料の世界スカウト機構規約「基本原則」。また「基本原則」かと、もう耳にタコが住み着いているとか言われて、私らも昔、WB研修所とかWB実修所出ましたけど、その頃「ちかい」と「おきて」の話は多く聞かされたんですけど定義とか目的とか原理とかあまりちゃんと説明してもらった記憶がないですよ。今は定義から「基本原則」として説明するようにしていますね。

① 定義

スカウト運動は、創始者によって考案された目的・原理・方法に従って、性別、出生、人種、信条の区別なくすべてに開かれている青少年のための自発的で、非政治的な教育運動である。

これは1924年に書かれた、かれこれ・・・だいぶ前、その頃にすでに性別とか出生の区別無く人種も関係ない、信条、宗教的な区別無くと言っているんです。今でも通用することです。実は「ちかい」と「おきて」の実践とか子供たち「ちかい」を立てますが、自分のために立てると言っていますが、こういう定義のベースの中で彼らは「ちかい」を立てていることを指導者として認識していただきたいのです。

② 目的

スカウト運動の目的は、青少年が個人として、責任ある市民として、地域、国、国際社会の一員として、身体的、知的、情緒的、社会的、精神的な潜在的能力を十分に達成できるように彼らの発達に貢献することである。

1924年ですよ。ある意味卓越した教育理論だと思います。こう言った目的を三つの原理に基づいて達成していこうということなんです。

③ 原理

- ・神へのつとめ
- ・他へのつとめ
- ・自分へのつとめ

イギリスでは、自己へのつとめ **Duty to self** を先に子供たちに教える。自分の成長に責任を持つ、次に自分以外の他のために何かする **Duty to others** 他へのつとめ、そうすれば神へのつとめを果たしたことになるという教え方をします。

その方が子供たちにとってはわかりやすいかもしれません。

④ 方法

スカウト教育法は以下を通して行われる段階的な自己教育システムである。

- ・ちかいとおきて
- ・行うことによって学ぶ
- ・小集団の一員となる・・・
- ・主に自然と触れ合う野外環境のもとで行われる・・・

日本語ではスカウト教育法と言っています。原文では **Scouting Method** 「スカウト法」です。教育は **Education** 潜在的能力を引き出すという意味、**Teach** でも **Instruct** でもありません。

潜在的能力を十分に達成できるように彼らの発達に貢献することである。と目的の中に書いてます。それはどうやってやるかは方法のところスカウト教育法は以下を通して行われる段階的な自己教育システムである。と書いてあります。

昔、指導者講習会では累進的自己教育体系と書いてあり、まあ同じ事です。自分で何か目的を作って、それにチャレンジして自分を自分で教育していくそれがスカウティングですよと言っています。

「ちかい」と「おきて」は方法です。行うことによって学ぶ、小集団の一員となる・・・主に自然と触れ合う野外環境のもとで行われる・・・これらの要素が有機的につながったものがスカウト教育法です。

スカウティングの教育システムという本には、スカウト教育法という一つのものには、「ちかいとおきて」「行うことによって学ぶ」「チームシステム」「象徴的な枠組み」「自然」「個人の進歩」「成人の支援」こう言う7つの要素が示されていますね。

ここからちょっと本題に入りたいと思いますが、マイク持っているのと喋り難い、後ろの方聞こえますか。スカウティングのプログラムというのは、世界スカウト機構では、こう言っているのですが、青少年のプログラムと言うのは「原理に忠実であること」「役に立つものであること」「最新であること」とWOSMはスカウティングのプログラムはこれではなかったらいけないと言っている。この場合、原理に忠実であるというのは、世界スカウト機構規約第1章、基本原則、原文は「**FUNDAMENTAL PRINCIPLES**」**FUNDAMENTAL**とは基本的な**PRINCIPLES**というのは原理「基本的な原理」、この下に神へのつとめ、他へのつとめ、自分へのつとめ、これは**PRINCIPLES**と書いてある。**PRINCIPLES**の言葉が被るので、日本語ではこの定義から方法までを「基本原則」と訳して、同じ**PRINCIPLES**なんですけど**PRINCIPLES**の方は原理と訳してある。この原理というのは定義から方法までを指します。要するにスカウト教育法をちゃんとやりなさいよ、やってくださいねということです。これ勘違いして「ちかい」「おきて」だけ教えてたらええねん言うて、活動もしないで「ちかい」「おきて」とは、子供に説教する指導者がいるけど、これはダメです。面白くも何ともない。

中途退団の理由をアンケートで聞いたら、隊長が嫌いというのが一番多かったそうです。ゲーム教えてくれるわけでも面白い事を教えてくれるわけでもなくて、神さん信仰してるかとか「ちかい」「おきて」守ってるかとか毎日言われたら、そりゃいやになりますよね。まずは面白い事やらないといかんですよ。役に立つこと・・・その子の成長に対して、役に立つこと、その子が地域社会に役に立つこと全ての事です。そして最新であるかということ、最新というのは家形テントが古いからドームテントにするとそういう意味ではない。プログラム題材が最新であるかどうかということです。

これから生きていく、これから社会で生きていく青少年を育てようとしているのに、もう消えゆく認識を教えるてもしょうがないですよ。先ほど県コミが言いましたけど、前向きに行きましょうということです。

ベーデン・パウエルのラストメッセージにピーターパンが出てきますが、B-Pがあの話を書いているときにピーターパンはロンドンで上演しているんです。ピーターパンは1904年に戯曲として書かれて、1956年までロンドンで何十年子供たちは見ている。今でもピーターパン見ますよね。榎原郁恵ちゃんがピーターパンやってみましたけど、ちょっと古いか、今は高畑充希ちゃん？あのメッセージの中に最新の上演している新しい情報を使っている。僕らからしてみればピーターパンの話は遙か昔の話ですけど、古典やと思っているけどあの頃はそうではなかった。今で言ったら妖怪ウォッチ、ポケモンも古い？この頃スマートフォン持って走ってますけど、もう考えたら20年前の話ですね。

こういうことを意識してもらいたい。スカウト教育法の7つの要素があって、「ちかい」「おきて」これを基盤としてとなっています。「ちかい」「おきて」はあの言葉以上のものでも以下のものでも無いと思います。スカウトの哲学はB-Pのラストメッセージなんですね。人間が幸福な人生を歩むとは何か、人間生まれてきたら、ただ一つ、人間の願いはただ一つ「幸福な人生を歩みたい」それだけです。そのためにはどうすればよいか・・・その哲学がラストメッセージに書いてある。私はそれをしっかり理解してもらったら良いのかなと思いますよ。私はそう思っていると聞いてもらえたら良いのですが・・・。次に「行うことによって学ぶ」まさに実学こそスカウティングだということでしょうか。

理論だけ学ぶのなら学校行ったら良いんです。チームシステムもしくはパトロールシステムと書いてありますが、グループを作って動く、次「象徴的な枠組み」これが一番解りづらいかもしれません。「シンボリックフレームワーク」ですね。これは後で説明します。次「自然」「個人の進歩」「成人の支援」成人がやるのではない、成人が支援する、どうぞお気を付けてください。

で「象徴的な枠組み」シンボリックフレームワーク、ちゃんと説明聞いた覚えのある方いらっしゃいますか？「スカウト」とはどういう意味？スカウトとは「斥候」斥候術です。

「斥候」とは軍隊で偵察員です。それがスカウティングです。要するに元々軍隊ごっこです。ベーデン・パウエルは騎馬兵です。英国連盟本部にアーカイブがあって、ベーデン・パウエルの刀があり、触らしてもらいましたがごっつい長い刀で、何でこんな長いんだと聞いたら馬の上から突くので長い、日本刀のように腰に付けたら抜けないですね。馬の胴体に付けてるから抜けるんです。要するに騎馬兵ですから速度が速い斥候やるのに向いている。

だから騎馬隊出身のB-Pが斥候に詳しかったんでしょうね。

ボーイスカウトは歩いて行くハイキングやテント立ててする野外活動がボーイスカウトの目的では無いですけど、キャンプやハイキングをしっかりとやらなくてはいけないというのは、斥候ごっこやっているからですよ。斥候の目的は観察と推理で敵の情報を味方に伝えることです。例えば、足跡がこれぐらいあるから何人ぐらいの兵力があって、ここに何日いたとか、どちら方向へ進んだとか情報を得て分析して敵の兵力を確認して味方に情報を送る。移動・観察・推理と分析・通信です。ボーイスカウトの元々のプログラムに入っているようにそれを外してはいけないと思います。スカウティングと言っているのだから、それが基本的なスカウトの技術です。同じようなユニフォーム着ているのもそういうことですよ。

ほんまもんの斥候隊はそれを戦争に勝つように使ったけど。我々は「平和の騎士」と言っているからそれを人のために役立てるように使いましょ。ハイキングの究極の目的は何かというと善行の機会を探すことで、観察・推理して何か違うことないか、何か良いことすることはないかと言ってその辺を歩くのがスカウティングの訓練ですよ。

これが象徴的な枠組みの一つです。大きな枠組みとしてはスカウトという枠組みの中で我々は青少年を育てて行くことがスカウト教育法であります。スカウティングは何かというとそういうものとご理解頂ければ幸いです。

2. 方法とプログラム

先ほどプログラムの発表をして頂きました。なかなか凄いなと思いました。

プログラムを作る時ってね。皆さん自分の隊でプログラム作る時どうやって作りますか？ボーイ隊だったら子供たちに来年なんかしたいことあると聞きます。研修所ではそうやって教える。子供たちのやりたいことを集めて、これは何月にできるとか言ってあてはめていく。子供たちに一番ほんまにしたい事何？って聞いたら、ゆっくり休みたいとか寝たいとか言いますね。彼らは毎日忙しい生活を送っております。下手したら私より忙しい。私はだいたい夜7時から飲んでおりますが、彼らは7時から塾行って勉強して

ますよね。

「もっとなんかしたい事ないの」と聞くと、隊長のメンツを潰すわけいかんからハイキングとかキャンプとかとりあえず隊長の喜びそうなことを言う。そして隊長は「そうかそうか」言うて、そして年間計画立てたら、辞めますとか言うてきたりして……。プログラムってだいたいそんな作り方すると思うんですが、テーマってあるじゃないですか、さっき屯田兵のプログラムやっていたじゃないですか。私は良くわからないですけど、確かにスカウトのプログラムというのは青少年の興味を基盤としたと書いてある。やりたいことをそのままやらせるとは書いてないんです。興味を基盤とするということは、一つ一つのアクティビティではなくて青少年の憧れとかね。こういったものをテーマにしていかないと「ピン」とこない。どんなことに青少年は憧れますか？何々になりたいとかこんなことをやってみたいとか。

例えば、テーマとして「僕らは町の消防士」としたら、消防士って何するんですか？

消火・救急・予防・救助これぐらいにしときましょうか。何かゲームになりませんか？消火器の使い方・バケツリレー・救助担架・ファーストエイド・ポスター作って貼る・夜回り・ロープワーク・大型構築物・通報なんかは、電話して火事や火事やとは言うけど、何処が火事かわからんとかね。そういったことの訓練としてのゲームが考えられる。

ボーイやベンチャーぐらいになると消火栓の位置、消防車が何処まで入れるか地域の人間として知っておかなきゃいけない。そこへ車置かないようにしてくれという話ですわ。例えば自分の家の周りの消火栓の位置が何処にあって、何処までなら、どの大きさの消防車が入って、だからここに消防車置くから車置かないでねと地域としては管理しなくてははいけないのですが、ちゃんと管理しているところはあんまりないんです。消火栓の周り1メートルは、法律で置くと決まっていますけど、そういうことを町の人が知っているということが大事なことです。そういうことをスカウトにちゃんと話をして、こういうゲームでこういう隊集会を展開できるようにする。「お前たちの学校で消火器をちゃんと使って火を消した経験のあるやつおるか？」これ中々おらへん。「クラスで一人だけお前が消火器使える。かつこええとおもえへんか。」「急造担架、クラスで誰かが病気になって担架あらへんってなったときに服脱いで担架作れるやつお前のクラスにおるか。」「自分の家の地域におるか。」「通報、火事であるとか、誰かが倒れたとか、救命救助が必要だという時にちゃんと通報できるやつおるか。」おれへん。「じゃお前がなったらええやんけ」という話です。

君がこの地域でこういうゲームを通じて役に立つ人間になれるということを話してやるのが指導者の仕事だと思う。そうすると子供たちが興味あるかないかわからないけれど興味を持つだろう。興味を高めていく、子供たちは最初ちょっとした引っ掛かりで憧れがあるけれどそれが現実の物として体験して自分が身に付けて出来るようになるという体験ができるプロセスというのを子供たちが認識するというのがスカウトのプログラムには大事なことです。ただ何となくやらせてたり、なんとなく隊長がやれというからやっているとか隊長が無理くそ……。言葉が悪かった。無理やり連れて行かれて、消防署に連れて行かれて見学せいと「あ〜もう〜」って思って連れて行かれて、「どやった？」と聞かれても「いや〜別に」としか言わない。

見学ってこんなことが多くないですか。でも事前になんとか話をしていたら意味が解る。昔は、教育・環境・経済、政治家が教育に取り組みますとか環境問題に取り組みますとか地域経済良くします。今は防災ですよ。今、防災キャラバンやっています。今トレンドですよ。やるなら今です。例えばこういうプログラムの作り方を。それはシンボリックな何かテーマを作る。カブでは昔テーマ委員会、今はプログラム委員会と言いますが、日本連盟や何処やらにある県連の委員会とは違うお父さんやお母さんや地域の人々のプログラム委員会、そういう時に例えば消防の人に入ってもらう。

そういうプログラム委員会やってはるところありますか？実はうちの県連でもあまり無いんですが……。でも実は大事なことです。親御さんに聞くのは「お宅のお子さん何処の塾行ってますの」と聞くのも大事なことなんですけど、「どんな事に興味を持っていますか」ということをカブ・ビーバーのお母さんたちに聞いてやってほしい。お母さん方に今度こういう集会やろうと思ってます。テーマは「消防士」です。消火器使えるようになります。ボーイだと一人前に使えるようになるでしょう。カブやったら消火器ゲーム程度ぐらいですかね。こういうプログラムを提供します。こういうことができるようになります。地域ではとても役に立つことを学べて子供たちに刺激を与えることができます。と親にアピールしたら、野球やっけてこんなこと覚えられませんか。サッカーやっけてこんなこと覚えられませんか……。なんてアピー

ルもできるようになります。

フレームワークをきちっと決めてやること子供たちの憧れとか興味を持っていることをフレームワークにして、その中でやることは何かということ、それが役に立つということです。そのことを彼らが身に付けた時に地域の中で光る存在になる。

「消火器ささっと使える同級生おったらどう思う？」と聞いたら「すごいと思う」と言ったら、「お前がなれ」と言う。「おまえがそうなったらええやんけ的プログラム」を作るときに誘導するのは大変難しい。新聞見たら昨日何処そこで大火事があったと・・・2日に一度ぐらいは載ってますよ。「昨日の新聞の火事な、隊長の家の近所でみんな燃えてしもた。通報は早かったけど消火栓のそばに車が止めてあって、消防車入れなくて、消火活動までに時間かかった。どうや、こういうことの無いようにボーイスカウトで活動してみないか？」こういう運び方しないと、いきなり「消防どうや」といっても「エ???なんで?」ってなる。

それは常に隊指導者がアンテナを張って子供たちと話し合いの機会を作る。中々機会が無いのですが、地域で起こった事件とか、良い事とか、歴史的な事とか、先ほど屯田兵の話がありましたが、屯田兵というテーマからこんなこともあんなこともできます。開拓とか、カブで言う開拓ってなんや? 屯田兵に憧れるようこれから1年掛けて持っていかなければいけないですよ。

そういう努力が必要なんです。彼らに興味を持ってこの運動のプログラムに参画させて、自分ができるようになったという自信を持たせる。実は憧れるプロセスを作っていく必要がある。

というのがボーイスカウトスカウティングプログラムの作り方なんです。こうなると親の役に立ちます。例えば、ボーイでロープ張ってリンツみたいの作るじゃないですか、スキルトレーニングで前回来た時にお話したと思いますが、ドームテントはポールと天幕が合っていないと立たない。モンベルのポールにエスペースは架からない、家形テントは、大方何とか立つんですよ。ということはその辺に落ちていた棒切れ拾ってきて、その辺に落ちてるブルーシートパクッてきて・・・いやしません・・・。ブルーシートと麻紐あったら、一晩ぐらいは凌げる物が作れる。これは役に立つから、家形テントを指導してくださいと言っている。それをもうちょっと簡単にしたらビバークテントが作れる。あの力学はいっしょですからね。

でもドームテントしか立てていない子は、ドームテントしか立てられない。僕らは野外活動をするのが目的じゃないんです。その持った技術を役に立てるのが目的なんで、そのために応用の効く技術をアナログであっても応用の効く技能を教えてやらないと、トラブルったときに何もできない。

うちの団の子なんです学校でこんな話があったのですが、学校で野外活動に行きまして、学校の先生にいろいろ教えられたんですけど何か道具が合わなくて「あれっ」となったらしい、菊スカウトの子だったのですが、「先生これこうするねん」とやってみたら、先生びっくりして、その子がボーイスカウトやっていたのは知らなかったらしい。後で先生が家でその話をしたら「ボーイスカウトで習ったんでしょね」という話だったということですが、学校で褒めてもらったか、本人はやる気になっていましたけど、単純なもんですよ中学2年生位だったらまだ騙せる。高校生位になるとこっちが騙されますからね。

他のために役に立つということで、そのベースにあるのは、スカウト技能です。スカウト技能を使って新しい題材、彼らの憧れる題材を使って、ゲーム化してプログラムにして、彼らを役に立つ少年に育ててやるという話です。大人はちょっと先回りして、消防はどういう仕組みだとか警察がどういう仕組みだとか、屯田兵はどんな歴史があるとか当時の日本の社会の背景ってどうだったのか、北海道という地域が当時日本の政府から見てどういう在り方だったのか、そういったことを大人が調べて筋道を小出しに騙していく。言葉が悪くてすいません。なんせ柄が悪いもんですから。

今は、お母さん。スカウトを続けさせるも辞めさせるもお母さんですわ。

色々、ご家庭の事情がありますから一律にはいきませんが、お母さん方にきちっとアピールすることが大事になってきます。お父さんにももちろんそうですけど、保護者の皆さんに如何にボーイスカウトに入ってこんなことができるようになりました・・・スカウトに「お前家に帰ってお母さんに『こんなことができるようになったんか?』と言われたら、嘘でも『うん』と言え」これが成人の役割です。(笑)

3. 成人の役割ってなんだ?

先ほど、ハイキングの究極な目的はという極端な言い方しましたがけれど、善行の機会を探して歩くのが

ハイキング、歩くだけでは無いんです。心のハイキング、常に何かを見て観察・推理、自分の体が動いたらそこに変化がなかったか観察する。ずっとそんなことしていたら疲れますから適当な時でいいですけど、そういう癖をスカウトの間に付けてやる。

昨日何でもなかったのに、今日は階段崩れてるなどか、ゴミ落ちてたら拾うとか、その街の状況を良くしていく、気が付くようになればいいですね。ネッカチーフの先結んでおけとか、ネッカチーフの先結ぶと一個だけなんです。一日一善やったら意味がないネッカチーフ先結んで解いたら、また結ぶ。一日に「善」は2回やっても3回やっても良いわけですから、「一日一善」ではなくて「日々の善行」。日々の善行って、英語ではデイリー グッド ターン 良いものは返ってくるということですね。日本にも「情けは人のためならず」という言葉があります。人に情けを掛けるのは、その人のためにならないと思っている方が多いんですが、「情けは人のためならず」はその人のためではなくて自分のためですよということなんです。ボーイスカウトではスローガン「日々の善行」として考えている。膳師コミッショナーと話をしていたのですが、僕らはこれを忘れていたんちゃうかと言っていたんですよ。

例えば、長岡理事長が立派な方やから、留萌の団に自分の子をボーイスカウトに入れてください。「長岡さんのように立派な方にしてください」と言って連れてくる親はいませんよ。知らないもんね。地域のあの子何してるのボーイやってるの、「じゃ、うちの子」もとって来るんでしょ。その地域で良い事やっているというのはどういう時なの？ 「あの子礼儀正しいし、ゴミ落ちてても拾ってるし、困っていたおばあちゃんの荷物持って運んでたし、時々お母さん代わりにの手伝いしてるし、ええ子やね。学校でも怪我した子を保健室に連れてったらしい、ええ子やね」、あの子「ええ子やね。何やってるの」「野球」。これじゃ野球に持っていかれるんです。「ボーイスカウト」って言ってもらわなきゃあかんですよ。「日々の善行」を子供たちがユニフォームを着て奉仕活動をやっているのは「練習」です。お母さん達から月謝？ 1000円とか2000円とか貰っているじゃないですか。「うちの子今月集会休んだのに、2000円も払わなきゃいかんのですか」すいません塾ちゃうから、その間も彼らは、スカウティングの影響下にある。

一か月間の影響下にある限りは、2000円払ってください。奈良の大佛さんも金くれって言ってますから、佛とは人偏にドルと書く(笑)、スカウティングの影響下にある間は、隊長がいつも「人のために何か良い事せい」と言ってるな・・・と意識させることです。彼はいつも心の中に「ちかい」と「おきて」の実践と言われて、「お母ちゃんの手伝いせいと言うてまんねんで」と・・・。2000円でお母ちゃんの手伝いせいと、何もしないと、そりやおかあちゃん怒りますわ。(笑)

4. スカウティングに求められるもの

金の話はまあええとして、「日々の善行」は心がけるようにする。スローガンですね。

スローガンとはどういう意味かと言うとその組織とか運動とか理念を一言で端的に表したものをスローガンと言います。

日本連盟の教育規程がモットーとスローガンと書いてある。日本連盟の理事がこんなこと言ったらあかんのですが、僕は資料にスローガンとモットーと書いたんですが、モットーとはスローガンを達成するために日々行うことをモットーと言うんです。こっちが方法論で、理念がスローガンです。モットーとスローガンは方法論が先にきているから、「スローガンとモットーちゃうか」とあるえらい方に言ったら「どっちでもええやろ」と言われたんですが(笑)。要するに日々の善行をするために、常にそなえている。常にそなえているのは善行するために備えているということなんです。

世界スカウト機構規約や日本連盟の教育規程にもいろいろ書いてあるけど、究極的に求めているのはここなんです。ユニフォーム着て隊活動やって色んな知識・技能を身に付ける。楽しみながら色んな知識・技能を身に付ける。これはロープワークとかだけでなく、消防といったような地域社会に役に立てることですよ。それこそ「最新であること」です。地域に役立つこと身に付けて地域に還元する。誰かのために役立てる最新の知識と技能を修得し、そういう人材を社会に送り出すのがスカウティングですよ。

出席率を100%になったらいいけど、そのために子供たち甘やかして、「来たらおやつやる」からとかではなく、「来たら人におやつあげられるようになるよ」と教えた方が良いですね。どうするのかわかん話ですけど。(笑)

要するに隊集會に来たら、人のために役に立つようになりますよ、とすることを社会にアピールできたら良いし、そういう子が地域社会で育っていったらスカウティングの価値が上がって来る。

今、そこが抜けているからスカウティングの価値が上がっていないと思います。偉そうに言ってますけど自分の団が出来てんのかと言われると中々大変なんですけどね。

我々は今その感覚で行かないとこの運動は忘れ去られてしまうと思うんです。

ユニフォーム着た人が町歩かなくなった。確かにそうですが、スカウティングの隠密性から言うとユニフォーム着てない時の方が大事。たまに着たら良いけど、それよりも普段町の中でスカウトは何をするかです。それはユニフォーム着て良い事してくれたら、もっと良いんですよ。

隊長にやらされてる奉仕活動、「日々の善行ってやっていますか」と言うと、多くの隊長さんは、「うち2か月に一回は奉仕活動やっています。」とおっしゃるんですが、それは違う。それは訓練、やらしているだけです。スカウトが自発的にやらないとダメなんです。自発的にやるということはユニフォーム着ているときも着てない時も関係なくやるはずなんです。5年生、6年生、中学生位の子がそこまでなってくると、この運動の価値が上がって来るんです。昔のイギリスのスカウト関係の絵葉書にお母さんが抱いている二人の子供のうちの子をユニフォーム着ているスカウトがあやしているとか、ロンドンでは寒くて地面が凍るので馬車の車輪のところにスカウトが砂を撒いているとか、おばあちゃんが薪割りしているのを手伝っているとか、公共機関に対する奉仕活動だけではなくて、もっと近隣の、人と人の素朴な善行というのが、本来推進されなきゃいけないのではないですかね。

そういう評判が上がっていったら、「うちの子、あんな子にして下さい」という事になりますよね。ボーイスカウトの事業計画、日本連盟の事業計画の中にですよ「あいさつをできる子を育てる」と書いてあるんですよ。確かに挨拶しない、ま、しない事も無いのですが、下手なんですかね。確かに「おはよう」というと「ああ」とか言って、それは何？ 野球とかスポーツをやっている子は、「おはようございます」「こんにちは」「ありがとうございます」とちゃんと言う子は多いですね。

ボーイの子はあんまりちゃんと言わない子が多いそうなんですが、日本連盟の事業計画から「あいさつをできる子を育てる」あれは早く取れるようにしないとだめですね。日本連盟の事業計画の中にあれが書かれているのは、かっこ悪いじゃないですか。北海道の大地でもよろしくお願いします。うちの団でもしこしこ頑張っています。「おはようございますぐらい言え」半分ぼやいておりますが……。

スカウティングの価値を高めるといえるのは、まずたぶん、加盟員増強であったりとか、中途退団を無くすということですが、スカウトの親の自信が無くなって来る。効果の上がらない教育に何千円というお金を毎月つぎ込む余裕と自信が無くなって来る。

だから辞めさせるんです。簡単な話で効果を上げれば良いんです。上がった効果はこれでしたと親に言ってやれば良いんです。「できるようになりましたよ」こういうプログラムをやって、こういう事を狙って、こういうことができるように地域社会で育てようとしています。

「お宅の子、地域の中で頼られるようになりませ！！楽しみですねお母さん」ほとんどペテン師やね。(笑) かまへん、最初のうちは騙したらよろしい。嘘もず〜と言っていたらほんとになりますから、(笑)嘘を言えとは言ってません。それぐらいの自信を持って隊活動をやってくださいねということですが……フォローになつたらへんけどね。信じてスカウト達にこうだよと言うのは、地域の中でこんなことできたらカッコいいと思わないかということです。「電車でおばあちゃんに席を譲って黙って去っていく君がカッコいいと思わへんか」(笑) 前の席からずっと見られていると照れ臭くなって来るんですが、スカウトは勇敢である……ですから。現場でスカウト達にスカウト達がこの運動に自分の意志で、「確かにそうや、やりたいな」と思うように、そういう仕掛けとか指導者が真剣にこんな子になってほしい、こんなことが出来るようになってほしいとか……。例えば「火事や！」って言ったらちゃんと冷静に通報できる技術を身に付けてほしいとスカウトたちに真剣に話をしてほしいですし、理解させてやって欲しい。そのために一時間掛ける必要は無いんです。皆さんのキャラクターで話せば良いことで、私だったら「できたらカッコいい」と言うだけですが、野内さんがいつも真面目そうな顔しているのに、そんな事言ったら子供が笑う……それぞれのキャラで話してもらえば良いですけど、子供たちに訴えるのはそこだ思うんです。

自信を持って隊集會に来なさい。隊集會で学んだことは自信を持って毎日の生活に役立てなさい。自信持ってお母さんの手伝いしなさい。「自分のナイフそんな研いでたらナイフが減るから、家の包丁研ぎしなさい」そしたら君のナイフ安泰やし、家の包丁は切れるようになる。お母ちゃん喜ぶ、おかず一品増える。それはおっさんの発想ですな。(笑)

そういう風な教育をやっていることを地域社会に知ってもらおう。子供たちが実際に善行を実践していつてくれたらこの運動の価値は上がるし、本質的なスカウティングになる。

5. より多くの青少年にスカウティングを

日本連盟広報委員会が相応のお金を掛けて有用な広報の検討をしています。もしね「スカウトになったらこんな子になります。」とテレビで出して、連れてきた親が「おらへんがなそんなやつ」と言って、連れて帰られたら日本公共広告機構から怒られますよ。(笑)

まずは団が、広報を適切にやらなきゃだめですよ。入団説明会で「うちの団では、こんな子がおりまして」と説明している時に後ろを制服をズボンから出したらしめないスカウトが歩いてきたら、誰が入れますかそんな処に、せめてその時だけは「ちゃんとせい」と言うとかなきやいかん。そこをきちんとやっておかないと、入れたい親に保護者に何を訴えていくかと言うことなんですよ。

騙しても良いけど、嘘を言ってはいけない。本当のことを言ってないということは、嘘を言った事ではない。「いい子いますよ」(笑) そうじゃない「いい子になりますよ」現物サンプル、中高校生がさわやかに「おはようございます」と挨拶をする。お母さん「あんないい子になりますよ」と言えます。

私は今、団委員長とビーバーの隊長を兼務しているのは、ビーバー隊はお母ちゃんに隊集会の連絡しますから、LINE ですから、入ってきたお母ちゃんのLINE を全部持っている。それだけです。(笑)

カブに上進したら、何か困ったことがあると隊長に言えないこと私に相談してくるんです。

ほとんどのスカウトの親の携帯電話番号とメールアドレスとLINE か何かは繋いでありますので、何かあると相談が来ます。「隊長ちょっとこの間のことで気になることがある」私、団委員長ですけど、「ビーバー隊の事なら隊長と呼んでも許可するけど、カブ隊以上の事は僕の事は団委員長と呼びなさい。」と言う。誰も団委員長と言わず隊長と言うんですが、まあ、それで良いんですけど、そして連絡が来て会いましょうかと言って、隊はこういうつもりでこういうプログラムやっていますからとか言って、フォローをするんですが、団委員長やってビーバー隊の隊長やってお母さん方のLINE を・・・。

皆さんにそれをせいとは言わないけれど、結構便利なのは事実です。でお母さん方に聞くんですけど、「どんな事したらいいの？」この間、ロープワークで、ビーバー高い所は怖がりますから、低い所で太いロープで木と木の間括って、引っ張ってラッシングすると、お母さん方が食い付いたのはその結びなんですよ。「うちの子も幾つ位になったら、こんな結び方できるようになりますか?」「中学2年生位になったらできると思いますよ」って言ったら、「あっ、そうですか後6年ですね。楽しみです。」とか、そんな事ができるように入れたいという保護者もいるんですね。ビーバースカウトとかカブスカウトの保護者が憧れている物・事を団の中で時々見せてあげるのも大事だと思います。

入団募集の説明会をする時は、ベンチャースカウトに案内させるとか。おっちゃん出たら、私みたいに増毛行かんならん奴が出て行ったらあかんすわ、若い高校生に案内させたり、簡単な説明はベンチャーにさせるとか。後は今いるビーバーの保護者に喋ってもらおう「どんな事が楽しかったですか?」「子供たちはどんな事が楽しかったと言ってますか?」とか、そしてその日から2か月間無料体験、その間はお金いりません。ユニフォーム着なくてよしい。2か月間、月2回から3回の集会ですが、2か月間来たら親は辞めるとは言わないです。2か月間4~5回来て、世話になってゲームしたり遊んでもらったら、「どうされますか?」と言ったら、「入ります。」と言うんじゃないですかね。今日説明していきなり「どうされますか?」って言ったら、「辞めときます」となります。

経験上ですが、昔ってそういう時は「入る」と言ったのですが、最近は迫られたら引くんです。迫ったらだめです。「決断しなくていいですよ今は。また来週来ませんか? こんなことこんなことやるんですが毎年子供たちが楽しみにしてるんですよ」と言ったら「じゃ来週お世話になります」となりますわ。「次は2週間後なんですけどね」言って、だいたい5人来て3人位は狙いたいところですね。

僕はいつもお母さん方にどんな事やったら良いですかね。どんなプログラムやったら良いですかねって聞きます。ただお母さん達が言う通りやったらあきません。ちょっとスカウティングの香りを付けて、ちょっとボーイスカウトらしい事をやります。

プログラムはオリジナルで考えた方が良いでしょう。

私たちの委員会で考えているのは・・・やっとな本題です。入隊もしくはこの運動に参加させるか決めるのは、ほとんど保護者特にお母さんです。ビーバーとかカブのスカウトを募集していく場合はお母さん方

の意見を良く聞いてください。今日、基本原則から話したかと言うと、お母さん方の言っていることがそれと合致しないのは、それはちょっと違うんです。お母ちゃんの言ってること何でもやっていたらプラス5マイナス0のマイナス0になります、マイナス0にする必要はありません。辞める子はいる。これしやあないです。この運動に合う合わないはあると思います。どうしても合わない子は辞めます。

例えば、経済的な問題だとか思想が合わないとか国旗に敬礼するのが気にいらんって言う親がいる訳ですからね。これはしやあないですわ。けど我々が主張すべきこと、ちゃんと我々がやっている本道の事だけは保護者には理解してもらわなくてはあかんです。

世界スカウト機構規約のこういう定義があって、このようなプログラムを提供しています。そのプログラムはどのように作られているかというのは、さっき消防のところを出した話の通り、こういう事で地域社会の役に立つ、大人としてこれから大きくなった時にこういうことを身に付けたら地域社会の役に立つ、防犯の役に立つ、地域の経済的発展のために役に立ちます。

秩父別のお米、このお米がどのように流通しているか知って、例えば農業指導員になりたいとかでくるかもしれません。色んな地域の事を知ってローカルの事を知って、その地域のために役に立ちたいとか少年の段階で考える子は、社会に出て、会社勤めとかもしくは商売をしたいとか職業を通じた地域貢献ができる。ボーイスカウトの大きな目的は職業を通じた社会貢献ができる人を育てることです。

さらに時間に余裕あったらボーイスカウトやってくれと、大学卒業して仕事はないけどボーイスカウトは一生懸命やっています。「いやいやいや、あかん」仕事せ、ボーイスカウト来んでええから仕事探せ。こういう事で社会貢献をできる青年を育てるということをプログラムの例を挙げてでも親に説明をしておいてほしい。「こういう事が身について地域社会に頼られる人、お母さんどうですか?」「自分の息子がこういう人だったら良いと思いませんか。」ボーイスカウトとはって言うから話がややこしくなるんですけど、そしてお母さん方を味方に付ける。

団支援・組織拡充委員会で一番言っているのは、お母ちゃんの井戸端会議の中にボーイスカウトが出てくるようにしようと言っているのですが、「あんたと今度、小学校入らはんのやろう。何すんの野球すんの、サッカーすんの」そこまでかいという感じ、野球とサッカーは出てくるけど、「いやいやうちはボーイスカウト」そう言ってほしい。だからお母さんを味方に付けとくとそういう相談が出てくる。個別が効くんですから、テレビコマーシャルやったって駄目ですから、野口聡一さんが出て来たって、そりゃ立派な人ですよ。けど宇宙飛行士やないすか「無理」と思うのが普通です。憧れの人物やから、テーマが「野口さんになりたい」で良いんですよ。宇宙の事調べようよで良いんですよ。

ただ、ストレートにあんたの子、野口さんのようにしてやる。それは言わない方が良いですよ。憧れはあるんですけど、保護者の気持ちにどのように訴えていくか考えていくことが大事です。

我々としては、お母さんが口に出してボーイスカウトを選択するようになることが望ましい訳です。

日本連盟では「加盟登録しませんか」確かに教育規程には加盟登録とは書いてあるし、登録しない奴はユニフォーム着たらあかんとは書いてある。けど、いきなり親に「公益財団法人ボーイスカウト日本連盟に加盟登録しませんか」とストレートに物言ったら「堪忍してください」となるケースが多いようです。

そして、日本連盟登録費は3,000円で県連費は1,000円、地区は500円で4,500円頂きます。それは入る価値を見い出したら加盟登録だろうが、何だろうが支払われます。まず価値、あなたの子供にこういうことをして差し上げます。この社会を良くするためにこの運動に入れませんか。社会を良くする一人の成人になってもらうためにこの運動に入れてくれませんか。これから地域社会と繋がらないと生きていけませんよ。当たり前の話ですが、そこまで大層な話じゃないですが、「いい子にしませんか」ということです。それは説明したら、地域社会、国際社会どうのこうのと言うことになりますが、23回世界スカウトジャンボリー皆さんにご協力頂いたと思うんですけど、確かに表向きは成功しました。お金も全ての支払いは完了し大丈夫でした。

世界スカウトジャンボリーやったら、この加盟員がV字で増えるって人もいるんですけど、そう簡単にはいかない。「世界スカウトジャンボリーは世界と繋がって山口であったんですよ」「あっそうですか、うちの子入れたら何時行けるんですか」「次はアメリカですわ」「辞めときますわ」ってなるわけですよ。アメリカ行くのに50万位掛かりますからね。国際的な運動で世界と繋がっているということをアピールするのは大事なことです、けれどあなたの子供って言ったときに小学1、2、3、4年生位の保護者ってというのは、学校とか地域社会位しか認識行かないですよ。世界と言われても「いづれね」って話の保護者

も多いです。今あなたの学校のクラスの中でちょっと違う子に育てませんか。何か皆困ったなって言っているときにニコニコ笑って「これはこうしたらええんちゃう、僕がその役やってあげます」と言うような子にしませんかと言うことです。

あんまり私のいう事は全部を真に受けなくてくださいね。これは使えるなという所だけ使ってくださいね。私の言うまんまやると世間から誤解を受けますから、気を付けてください。

スカウトを違う角度から見た場合、保護者の観点、地域社会の観点から見た場合、確かにWB研修所とかWB実修所ではスカウティングはこのように展開してくださいと言うけれど、そのことは保護者には響かない、隊長が研修所で学んだ事をそのまま保護者に言っても響かないですよ。

WB研修所はそういうものではないから「お前たちトレーナーが言っていたこと保護者に言ったって響かないやないかい」響くわけじゃないですよ、隊長養成のためにやっているんですから、さらにはこの運動を一定の基準に置くためにやっているんですから、定型訓練というのはそのためにやっているんですから、もちろん集会で役に立つのはあるんですが、国連盟としてはこの運動を変な方向に持っていけないように正しい方法はこれだっせと教えている訳ですから、これは保護者に言ってもあまり響かないですよ。

保護者に言うのは、「あなたの子はこのようになりますいかがですか、入れませんか、あなたの子は地域社会でこういう子供に育ててくれたらこの町はもっと良くなります。」言うならそこです。

市議会の議員さんとか市長さんとか町長さんとかに言うことなら、ボーイスカウトに支援してください。あんなプログラムやっています。こんなことをできる子を育てるために日夜努力しています。このような子供たちを沢山地域社会に送り出したいのです。お金くれませんか・・・。

そんなうまく行ったら誰も苦労せえへんけど・・・。100%は上手く行かないですけど、なんぼかでも役に立つなら、やってみる価値はある。

全然役に立たないと言われたら、2泊3日でここに来た意味が全くなくなるので、一つご協力をお願いいたします。

プログラムの作り方、中に何が埋め込まれているか、それが彼らの気持ちの持ち方ですね。自分の持っていることを少しでも人の役に立てる事、「ちかい」と「おきて」実践は実はそのことと一緒です。自分が何か頑張ります。隊集会行きました。学んだこと一生懸命取り組んで学んだゲームに勝ち負けはあるけれど、ゲームやりました。身に付きました。それが地域社会で、目の前で役に立った時は、昔やったことは「忘れた」じゃなくて、練習してキープしておく、意識してキープしておく、これが「そなえよつねに」と言うことです。「日々の善行」に対して学んだことは時々練習する。私が昔、英語の先生に良く言われましたが、「一日5分やれとそれができないから英語上手にならへん。」「この前、手旗やったけど忘れてないか」とか「消防の通報の間やったけど忘れてないか」とか時々振ってやると思い出す。

隊長さんが2、3か月前の事を振ってやると「えっ」ってなるんですよ。意識しているとスキルは落ちない。完璧に意識から抜いちゃうから忘れちゃうんですよ。意識しているとやっても体が覚えているものです。これは不思議なものです。そういうのを繰り返して、子供たちに学んだという実感を感じさせていただければ、たぶん彼らはこの運動に残って行ってくれる。もしくは、一旦何かの事情があって辞めたとしても戻って来てくれる。それは小さいうちにこの運動の価値をしっかりと正しく身に付けているか認識した子はきっとこの運動に戻って来てくれると思います。

そう信じてやって行きたいと思います。今日はありがとうございました。

《第5回北海道・東北ブロック野営大会》

ボーイスカウト北海道連盟

派遣団長 三國久介



歴史のある福島県猪苗代町天神浜で開催された第5回北海道・東北ブロックキャンポリーに、初めて派遣団長として参加した。

苫小牧西港に5HTCに参加する派遣団・派遣隊が集合し、フェリーで仙台港に向かう。波も穏やかに快適なフェリー旅である。

仙台港から猪苗代町天神浜まではバスで移動、気温は30度越えであり、北海道とは比べものにならないような暑さで、参加スカウトの顔を見てみると、体力的に大丈夫なのかなと思うスカウトもいて、この暑さの中で大会を乗り切れるのか不安を覚えた。

大会会場に到着、景色もすばらしく、キャンプサイトも他県連と少し離れた場所であったが、申し分のないサイトであり、キャンプ生活を満喫する事が出来る予感がした。私はいつも大きな大会に参加する度に、誰よりも大会を満喫して帰ることを目標としている。今回も“楽しむぞ”と・・・派遣団長という任務を忘れてしまうところであった。

大会が始まり、やはり連日の30度を超える暑さの中で、熱中症の心配があったが、派遣隊指導者のおかげでスカウトは体調を崩すこともなく元気に行動していたことに安堵した。

プログラムもスムーズに進行し、このまま雨も降らず撤収が出来ると思った最終日、撤収が始まってから雨が降り出してきた。私が前日の派遣団長会議のなかで、少しくらい雨がほしいよねと話をしたからかなと、皆さんに大変申し訳なく反省しております。

今回の大会においては、福島連盟の皆様の献身的な奉仕のお陰で、大会を無事成功裏に終わることが出来ました。大会に参加した全員の心に残る大会になったことと思います。この大会を支えてくれた皆様に心より感謝致します。



《第5回 北海道・東北ブロック野営大会》





《全国大会宮城》

《防災キャラバンイオンモール苗穂店》



《防災キャラバンイオンモール苗穂店》

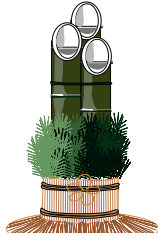
《南富良野災害ボランティア》



《北海道・東北ブロック協議会総会》

《NHK杯国際フィギュアスケート競技大会》





新春弥栄

2017 新春 誌上賀詞交換

スカウトの仲間を増やして
運動の拡がりを！！

北海道連盟 連盟長

北海道神宮 宮 司

吉田 源彦

〒064-8505 札幌市中央区宮ヶ丘474

あけまして

おめでとうございます

北海道連盟 先 達

北海道連盟 顧 問

三浦 武

赤平市

あけまして

おめでとうございます

北海道連盟副連盟長

北海道スカウトクラブ幹事長

江別第2団ビーバー隊長

大橋 和子

謹賀新年

ボーイスカウト北海道連盟

札幌第24団育成会長

衆議院議員

高木 宏 壽

ボーイスカウト十勝地区協議会会長

北海道議会議員

清水 拓 也

謹賀新年

ボーイスカウト北海道連盟顧問

ボーイスカウト札幌第1団CS副長

小笠原 清行



あけまして
おめでとーうございます

挑む
—いつでも真剣—

えんどう れん
遠藤 連
北海道議会議員

謹賀新年

日本ボーイスカウト北海道連盟相談役
日本ボーイスカウト北海道連盟スカウトクラブ副会長

入部 道之

賀 春

ボーイスカウト北海道連盟参与
ボーイスカウト室蘭第4団 副団委員長

西岡 浩

謹賀新年

北海道連盟相談役
札幌第26団 団委員長

前田 和道

賀 春

ボーイスカウト北網地区協議会
会長 櫻田 正文

謹賀新年

ボーイスカウト北海道連盟参与
ボーイスカウト上川地区副委員長

小西 恒

あけましておめでとうございます

胆振地区

—地区役員—

地区協議会会長	滝口 信喜
地区協議会副会長	熊野 正宏
地区委員会委員長	田中 洋一
室蘭第1団団委員長	高橋 忠義
室蘭第4団団委員長	田中 洋一
登別第1団団委員長	木原 靖之
伊達第1団団委員長	辻 正博
苫小牧第2団団委員長	永井 承邦
コミッショナー	村中 啓子
副コミッショナー	月館 良治
副コミッショナー	牧口 勝治
事務長	小笠原 貢
事務次長	渡邊 昌彦
地区会計	佐藤 公英
総務委員会副委員長	亀岡 富信
スカウト委員会副委員長	松橋 恵一
リーダー委員会副委員長	猪股 瑞彦
プロジェクト委員会副委員長	西岡 浩
地区監事	鷺沢 義則
地区監事	米沢 健

—北海道連盟役員—

地区選出理事	田中 洋一
副理事長	下田 好徳
監事	高橋 忠義
名誉会議議員	高木 康
相談役	高田 道夫
参与	塩谷 真守
参与	佐藤 公英
参与	西岡 浩

事務局 〒050-0065

室蘭市本輪西町3丁目22番12号

電話・FAX (0143) 55-2876

迎春

本年もよろしくお願ひ致します

北網地区協議会会長 櫻田 正文

北網地区委員長 鴨下 泰久

北網地区コミッショナー 得能 和成

謹賀新年

スカウトの目線で活動しよう!

ボーイスカウト北海道連盟理事長

長岡 正彦

9月ビーバー・カブは秩父別に全員集合!
2017

新春弥栄

コミッショナー	清水 義明
副コミッショナー	今井 建
副コミッショナー	吉田 淳一

新春弥栄!

北海道連盟副理事長 留萌地区委員長

三国 久介

謹賀新年!

スカウトに楽しいプログラムを!

日本ボーイスカウト北海道連盟

副理事長 下田 好徳

北海道連盟監事
札幌地区副委員長
札幌第4団団委員長

北 秀継

謹賀新年

旭川地区協議会

顧問 野原 典雄
顧問 川村 武雄
顧問 森 豊

地区協議会長 松倉 信乗
地区委員長 高橋 明
地区副委員長 山口 淳
野営行事委員長 山口 淳
組織拡張委員長 高橋 明
リーダー委員長 杉田 肇
野営場運営委員長 天満 昇
財政委員長 花田 芳人
会計 金澤 利寛
事務長 浅野 玲子
監事 池内 勝

地区コミッショナー 村上 政義
副コミッショナー 宮澤 多佳子
副コミッショナー 杉田 肇

新年！弥栄！！

留萌地区

留萌第1団 団委員長 櫛井 二三夫
留萌第2団 団委員長 下田 満
秩父別第1団 団委員長 寺迫 公裕
羽幌第2団 団委員長 小寺 克彦
稚内第2団 団委員長 前田 義彦
地区協議会長 櫛井 二三夫
地区委員長 三国 久介

2017

新春弥栄

ともに“光の路”を歩みましょう！

十勝地区

帯広第4団

育成会長 渡邊伸夫

団委員長 尾張 景

指導者・スカウト・保護者一同

「2017 カブラリー in 秩父別」
みんなで参加しよう！！

新春のお慶びを
申し上げます

石狩地区

地区協議会長 箱島 盈
地区委員長 小林 幸治

本派弥栄

高橋 忠義

北海道連盟監事
室蘭第1団（本教寺）団委員長

新春弥栄

子どもたちが小さな胸に
大きな思い出残して
西となる 札幌第27団

謹賀新年

日本ボーイスカウト北海道連盟
釧路地区委員長

田中 卓

明けましておめでとうございます
今年もよろしくお願いたします
ボーイスカウト北海道連盟札幌第9団

育成会長 三浦 崇
副育成会長 北野 義城
団委員長 樟本 賢首
副団委員長 北野 和

新春弥栄

ボーイスカウト北海道連盟
釧路第6団

団委員長 白浜 正宣
副団委員長 藤田 茂

あけまして
おめでとう
ございます

北海道連盟スカウトクラブ

桑原 隆

若行老支

北海道連盟スカウトクラブ

会長 永岡 裕
副会長 西岡 浩
副会長 入部 道之
幹事長 大橋 和子
幹事 藤本 安一
幹事 岡田 聡
幹事 宮内紀代志

新春弥栄！

ボーイスカウト北海道連盟
常任理事 北野 和

活動的で自立したスカウトを
育てることを目指して

北海道連盟副理事長

扇間 康弘

斧の響き 153号 (平成29年1月1日発行)
発行・印刷：日本ボーイスカウト北海道連盟／発行責任者：北海道連盟 理事長 長岡 正彦
〒062-0934 札幌市豊平区平岸4条14丁目3-40
北海道ボーイスカウト会館内
Tel 011-823-7121／ Fax 011-814-9377 E-Mail bs-douren@bz04.plala.or.jp